

# タイに於ける倫理的価値観

蔵 谷 哲 也

## 1. はじめに

本稿では、タイにおける価値観とライフスタイルに関するアンケート調査(1989年実施：観測値2000)から倫理的価値観についての集計結果を提示する。<sup>(1)</sup>

取り上げられる倫理的価値観は、

- 1) ほとんどの人々は正直で信頼出来る。
- 2) 結果が手段を正当化する。
- 3) 孝心は社会にまだ非常に多く残っている。
- 4) 権力当局を尊敬することは重要である。
- 5) 年長者のアドバイスに耳を傾ける。
- 6) 婚前交渉は悪い事である。

ここでの目的は標本全体の賛否の割合を提示するのみならず、標本をクロス集計し、各カテゴリー毎の賛否に注目することである。これによってその小区分された中に於いても、賛否の傾向は同じであるか否かを検討出来る。仮に幾つかの階層でクロス集計しても賛否の傾向が同じであれば、検討される価値観は標本全体に於いては普遍的であると言えよう。

又、比較の観点を与える意味で聖書の教える考えと比較検討してみる。タイ国の宗教は国民の内、95%が仏教徒であるから、<sup>(2)</sup> キリスト教とは異なった倫理観を持つ事が期待される。

手法としてはクロス集計表を作成し、その行と列に於ける連関を5%の有意水準でカイ二乗検定によってその有無を検討していく。換言すると、帰無仮説：「行変数と列変数の間に連関は無い」を検定する。行はアンケートの賛成また

は反対という水準を表わし、列は階層変数の各カテゴリーを示す。階層変数には年齢、教育、勤め先、性、民族、親の宗教、自己の宗教、住居、小遣い、仕事、配偶関係、月当り所得が用いられる。<sup>(3)</sup>

カイ二乗検定によって、有意と見なされる連関が多く見いだされた場合、価値観の分布に影響を与える何かが存在する事が示唆される。反対に統計的に有意な結果がほとんど無かった場合は、高い割合をもつ価値観は、本標本調査に関しては、一般的な傾向を示すものであると結論付けられる。

標本全体の回答結果は表1に示される。この標本調査の結果のみから、全く

表1

タイに於ける倫理的価値（単位：％）	賛成	反対
1)ほとんど人々は正直で信頼出来る。	29.96	70.04
2)結果が手段を正当化する。	89.54	10.46
3)孝心は社会にまだ非常に多く残っている。	83.34	16.66
4)権力当局を尊敬する事は重要である。	13.05	86.95
5)年長者のアドバイスに耳を傾ける。	78.74	21.26
6)婚前交渉は悪い事である。	52.48	47.52

単純に一般化して言うと、タイの人々はあまり正直ではなく、目的の為には手段を選ばず、権力当局には敬意を払わない。しかし、孝行の心は有り、年長者の話聞く。そして婚前交渉については反対と賛成の割合はほぼ同じであると言える。

## 2. クロス集計の結果

以下、それぞれの価値観を1つずつ検討していく。

### 1) 「ほとんどの人々は正直で信頼出来る」

岩城雄次郎氏のタイに比較的長く住んでいる日本人100人のタイ人像に関する調査によると、タイ人の欠点についてのアンケート結果を、回答者数の多い項目から並べると、最初に来るのは「無責任である」の項目で35人である。<sup>(4)</sup> 本稿の調査結果と比較してみると、29.96%が人々は正直であり、信頼出来ると考えており、岩城氏の結果と、定性的には同じであるといえる。

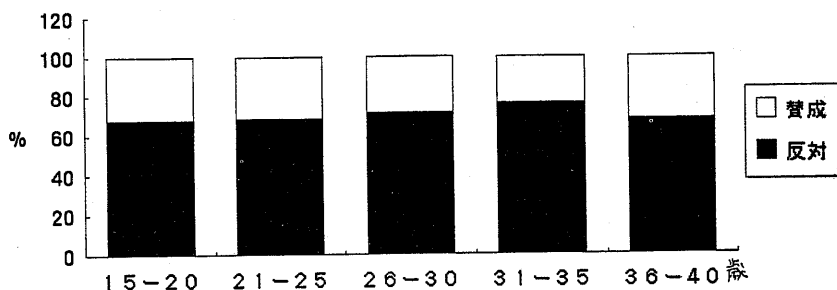
一方、これとは対照的に聖書の考えで箴言2章21、22節では「正直な人は地

に住みつき、潔白な人は地に生き残る。しかし、悪者どもは地から絶やされ、裏切り者は地から根こぎにされる』と述べられている。

### 年齢<sup>(5)</sup> (図1)

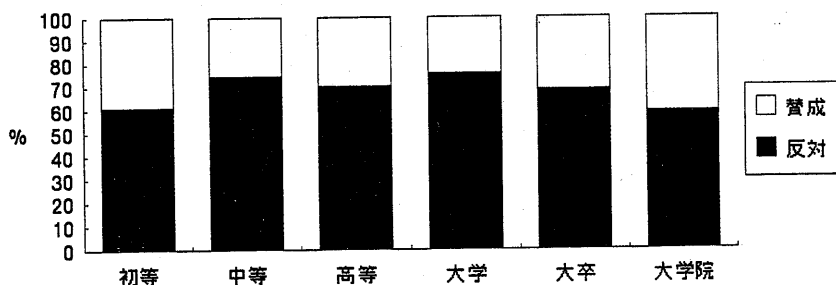
5つに年齢を区分し、クロス集計表を作成する。その中で最も賛成の割合が高いのは36-40歳層で32.23%あり、その割合が最小なのは31-35歳層の23.9%である。そのクロス集計表から、各年齢層の賛否の割合を示したものが図1で

図1



あり、15-35歳までは、年齢の増加とともに賛成の割合が増している事が読み取れる。ここで、クロス集計表の行（賛否の水準）と列（年齢層）の間に何等かの連関があるか否かをカイ二乗検定すると、9.252で有意確率は0.055であるから、本データに基づいては賛否と年齢層には連関は無いと考えられる。

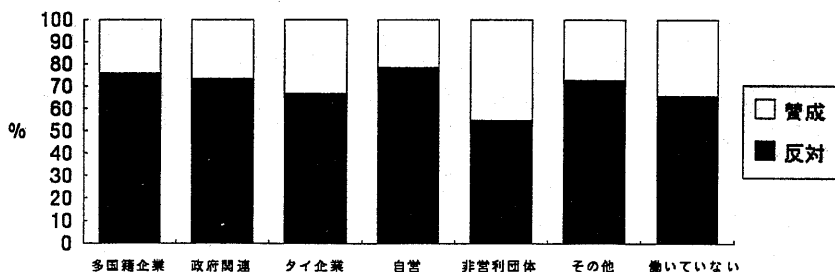
### 教育 (図2)



賛成の最大は大学院層で41.03%、最低は大学層で24.34%。カイ二乗検定をするとその値は16.727で有意確率0.005であるから、教育と賛否の間には連関が

あると言える。

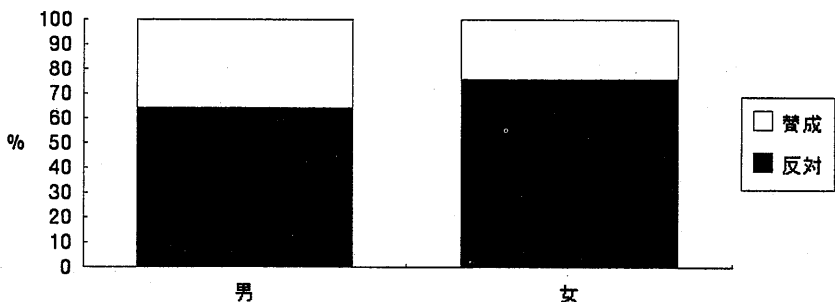
勤め先 (図3)



賛成の最大は非営利団体で45.24%、最小は自営業で21.63%。カイ二乗検定値は27.172で、有意確率は0に近いから、連関があると考えられる。

性 (図4)

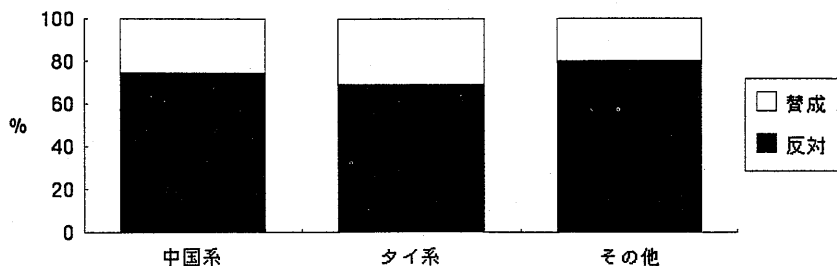
タイ社会における男女の差とは赤木氏によると「衣・食・住の生活を支える日常の生産的活動を分担するのが女性で、儀礼に代表される消費的・非日常的活動



を分担するのが男性であるとしている。<sup>(6)</sup>

賛成の割合は男が35.77%、女が24.25%。カイ二乗検定を行なうと、31.598で有意確率が0に近い。この結果から、「正直で信頼出来る」と考えるのは、11.52パーセンテージ・ポイントだけ男性の割合が女性より高いと言える。

民族 (図 5)

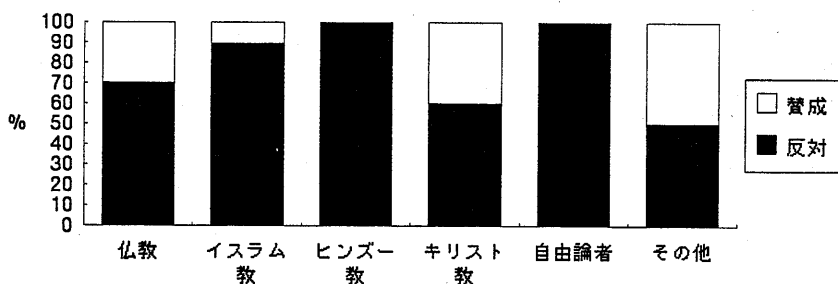


賛成の最大はタイ系の30.81%、最小はその他の20%。度数が5より少ないセルの割合が33%あるが、ここでカイ二乗検定を行なうと、その値は3.345(有意確率0.166：以下でも括弧内に有意確率を示す)であった。さらに、この度数不足を解消するためにその他(度数合計5)を計算から落として、値を求めると、3.345(0.067)であり、民族と賛否の水準の間には連関が無い事が示された。従って、民族間ではこの価値観に対する賛否の分布は統計的には違いが無いと考えられる。<sup>(6)</sup>

#### 宗教<sup>(7)</sup>

親の宗教(図6)が子供の価値観に影響を与える事は直感的には諾けること

図 6



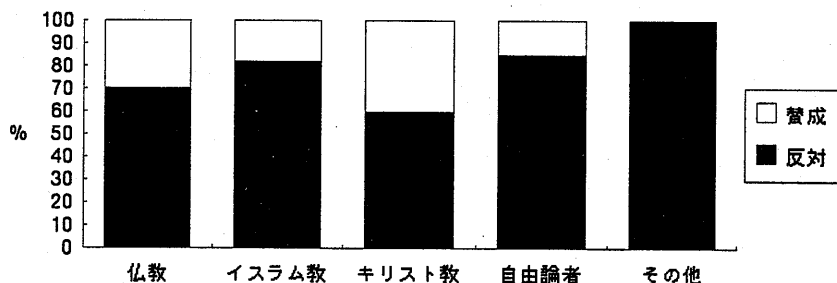
である。賛成の最大はその他の50%、最小は自由論者、ヒンズー教で0%。ただし、この標本調査の中ではこれらの度数は相対的に小さく、ヒンズー教は1、自由論者は2、その他は6しかない。

カイ二乗検定を行なうと、7.289(0.2)であり、度数不足を修正するためにヒ

ンズー教、自由論者、その他を落としてみると、4.861(0.088)であるから、親の宗教と賛否の間には有意な連関が見られなかった。

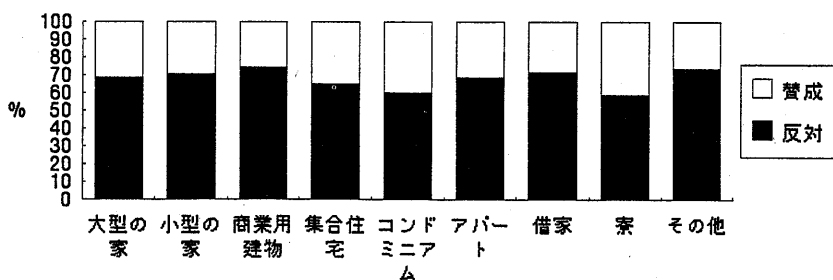
次に自己の宗教(図7)について見ると、賛成の最大はキリスト教で40.35%、<sup>(5)</sup>最小はその他の0% (ただし、その他の度数は2)。ここでのクロス集計表の中

図7



の4つのセルの度数がそれぞれ5以下でしかないが、セイ二乗検定を行なうと、4.348(0.162)。そこで、自由論者(度数13)とその他(度数2)を落として、検定を行なうと、4.348(0.114)であり、宗教との連関も統計的に見て無いと考えられる。

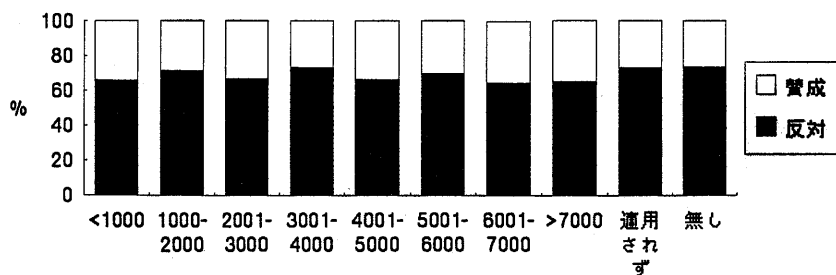
住居(図8)



賛成の最大は寮で41.38%、最小は商業用建物で25.81%。カイ二乗検定値は15.896(0.044)であり、住居と賛否の間には連関があると考えられる。

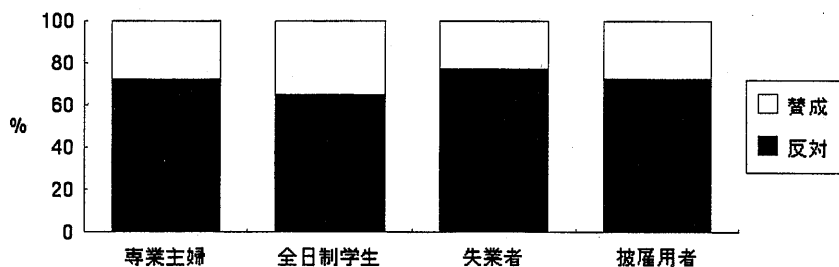
小遣い(図9)

図 9



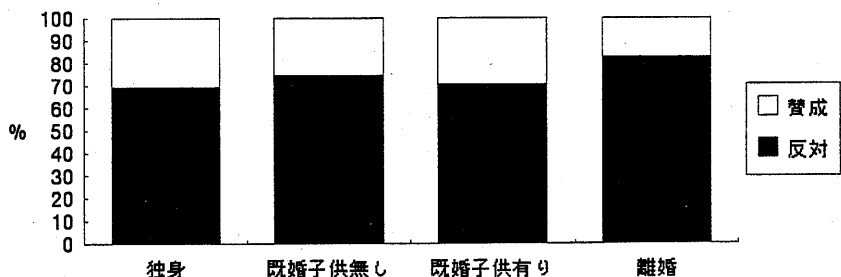
賛成の最大は6001－7000バーツ層で35.59%、最小は無しの層で26.76%。カイ二乗値は9.354 (0.405) で、連関は無いと考えられる。

仕事 (図10)



賛成の最大は全日制学生で35.17%、最小は失業者層で22.73%。カイ二乗値は13.508 (0.004) であるから、連関があると考えられる。

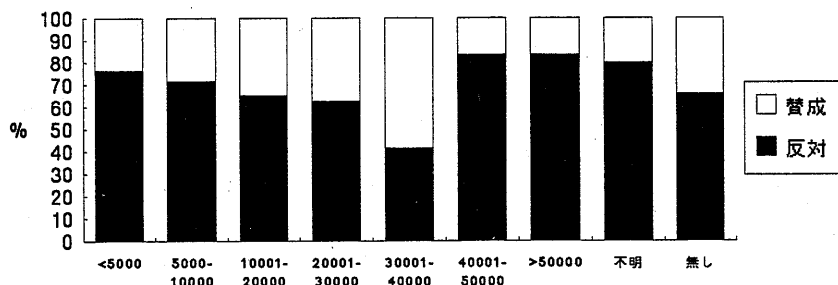
配偶関係 (図11)



人々の生活に於ける価値観を左右するものは回答者の現在の配偶関係がその一つであろう。

賛成の最大は独身層で30.8%、最小は離婚者層で17.39%。カイ二乗値は、3.321(0.345)。連関は無いと考えられる。

月当り所得 (図12)



賛成の最大は30001-40000パーツ層で58.82%、最小は40001-50000パーツ層と50000パーツを上回る層でそれぞれ16.67%。カイ二乗値は32.986(0.00)であるから、連関があると考えられる。

## 2) 「結果が手段を正当化する」

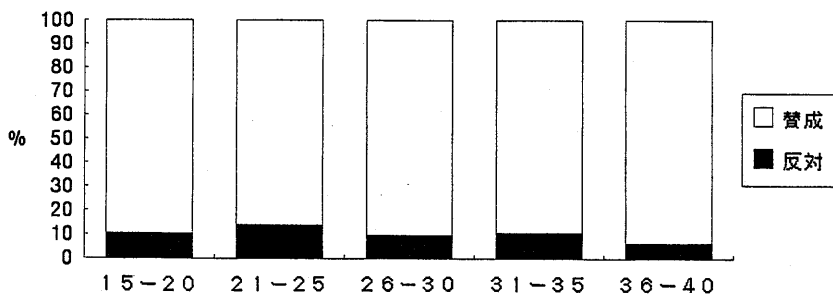
岩城氏自身の観察によるとタイ人の価値観の一つとして「短絡至上主義」を掲げている。それは次のように表わされる。じっくりと時間をかけて粒々辛苦の結果、素晴らしいものが出来上がるのを待つよりは、その過程を省略したり、いっそのこと誰かにそれを代行させたりする方が簡単だし、得策である。<sup>(8)</sup>

一方、箴言13章11節では「急に得た財産は減るが、働いて集める者は、それを増す。」とあり、手段自体も正当であるように示唆している。

年齢 (図13)

賛成の最大は36-40歳層で93.67%、最小は21-25歳層の86.13%。カイ二乗検定をすると12.223(0.016)であり、年齢と賛否の間に連関がある事が示唆される。

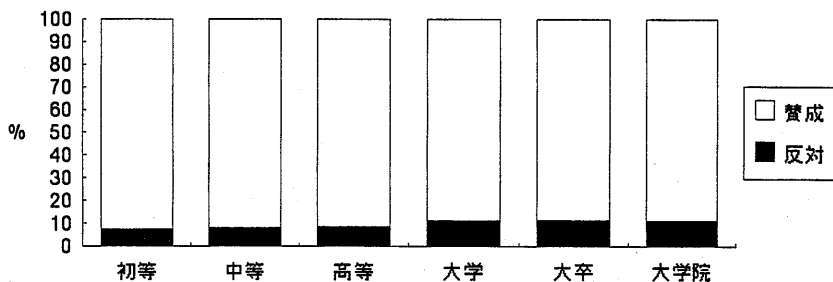
図13



## 教育

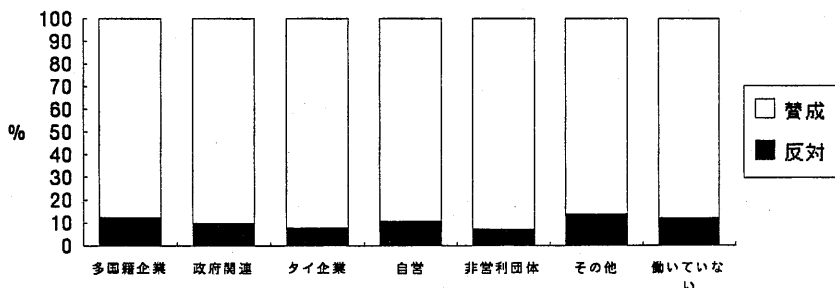
図14を見ると、賛成の割合は教育水準が上がるにつれて少しずつであるが、高くなっていることが分かる。賛成の最大は初等教育層で92.68%、最小は大学

図14



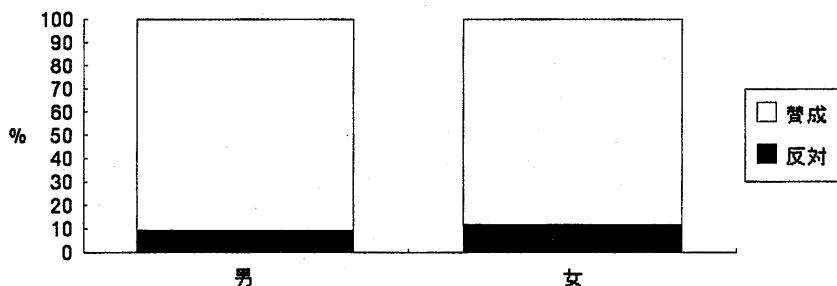
院層で88.89%。カイ二乗検定をすると3.774(0.582)であるから、教育と賛否の間には連関は無いと言える。

## 勤め先 (図15)



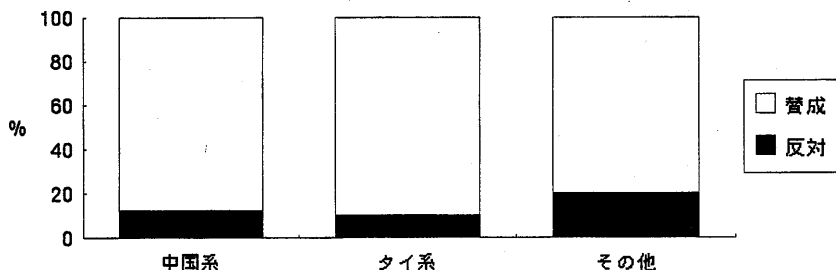
賛成の最大は非営利団体層で92.86%、最小はその他の86.36%、カイ二乗検定の値は5.135(0.527)であるから連関は無いと考えられる。

性 (図16)



賛成の割合は男が90.78%、女が88.32%。カイ二乗検定を行なうと3.229(0.072)であり、男女間では価値観は同じであると考えられる。

民族 (図17)



賛成の最大はタイ系で89.89%、最小はその他の80%。カイ二乗検定を行なうと1.707(0.426)。度数不足を解消するためにその他のカテゴリーを落としても、カイ二乗値の有意確率は26.9%だった。

## 宗教

まず、親の宗教 (図18) から見ると、賛成の最大はヒンズー教、自由論者、その他の100%で、最小は仏教の89.34%。カイ二乗値は3.311(0.652)で、度数不足を解消する為に上述の操作を行なったが、有意確率は5%より大きいままであった。次に自己の宗教 (図19) では、賛成の最大がイスラム教とその他で100%、最小は自由論者で76.92%。カイ二乗値は6.736(0.151)。自由論者とそ

の他のカテゴリーを落としても、カイ二乗値の有意確率は5%より大きいままである。

図18

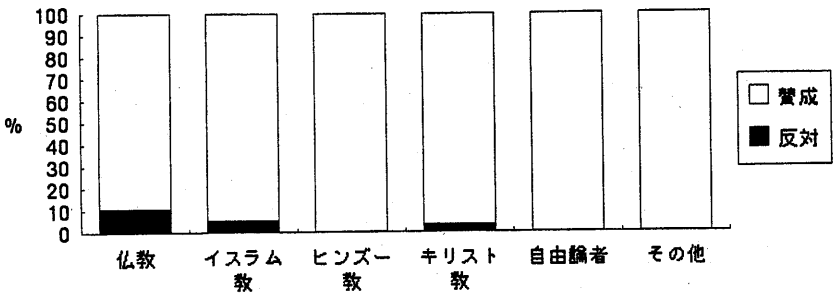
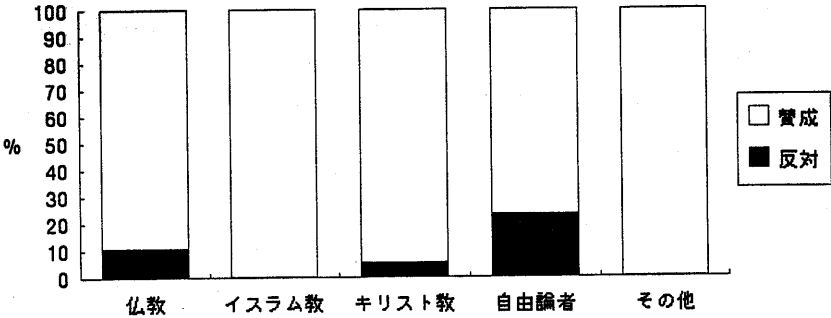
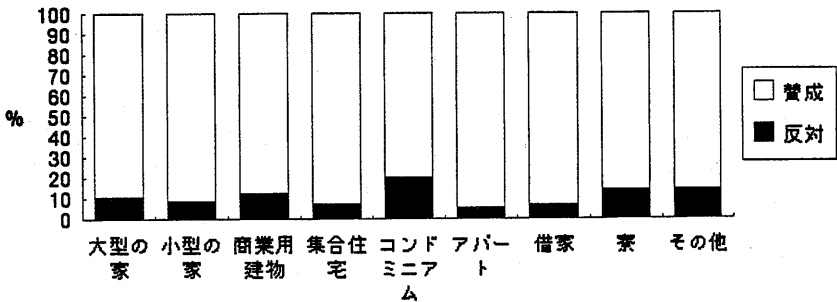


図19

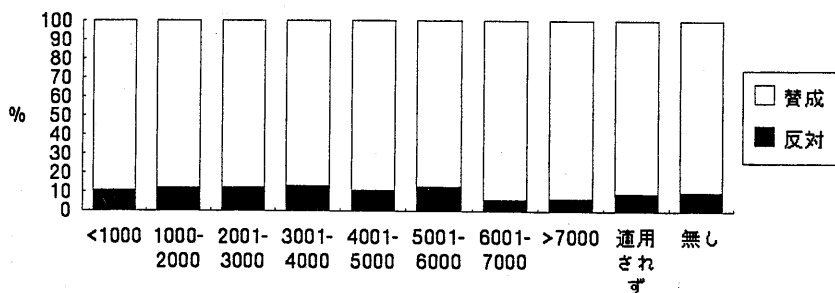


住居 (図20)



賛成の最大はアパート層で94.74%、最小はコンドミニウムの80%。カイ二乗値は10.716(0.218)であり、住居と賛否の水準の間には連関は無いと考えられる。

小遣い (図21)

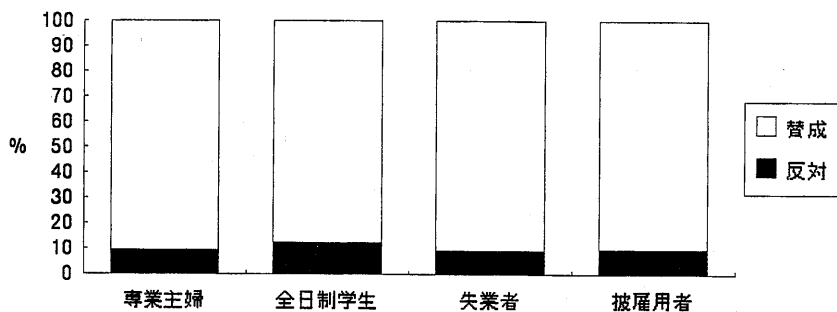


賛成の最大は6001-7000バーツ層で、最小は3001-4000バーツ層で86.99%。  
カイ二乗値は6.731(0.665)であるから、連関は無いと考えられる。

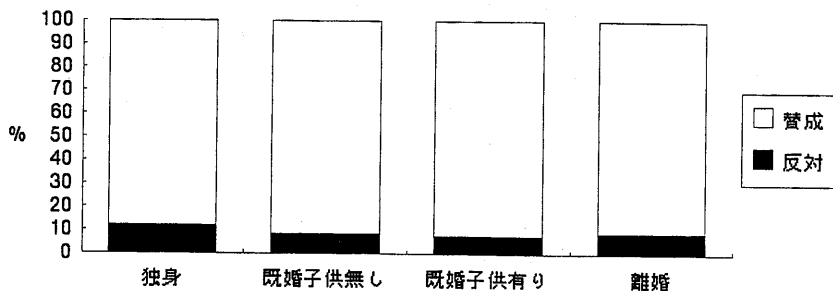
仕事 (図22)

賛成の最大は失業者層で90.91%、最小は全日制学生層で87.78%。カイ二乗値は3.382(0.336)であるから連関は無いと考えられる。

図22



配偶関係 (図23)

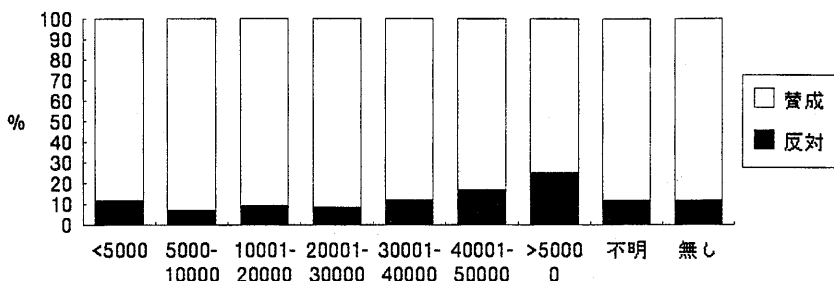


賛成の最大は既婚子供有りの層で92.63%、最小は独身層で88.18%。カイ二乗値は8.484(0.037)であるから、何等かの連関があると見なされる。

### 月当り所得

図24を見ると、賛成の割合は所得の増大につれて減って行く傾向がある。賛成の最大は5000-10000バーツ層で93.05%、最小は5000バーツを上回る層で75%。カイ二乗値は11.477(0.176)であるから、連関は無いと見なされる。

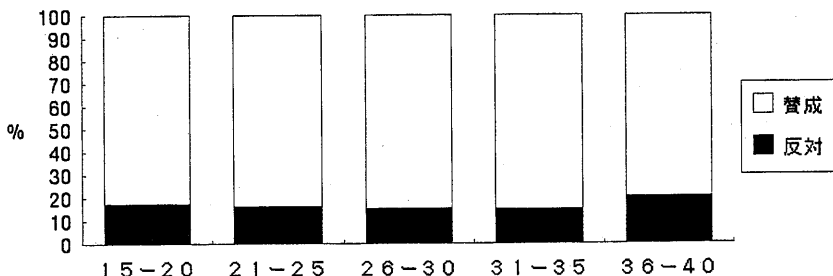
図24



### 3) 「孝心は社会にまだ非常に多く残っている」

本標本の80%以上がこの考えに賛成しているが、箴言23章22、25節は「あなたを生んだ父の言うことを聞け。あなたの年老いた母をさげすんではならない。あなたの父と母を喜ばせ、あなたを産んだ母を楽しませよ。」と言っており、定性的には同じ方向にある。

### 年齢 (図25)



賛成の最大が31-35歳層で85.16%、最小は36-40歳層で79.82%。カイ二乗

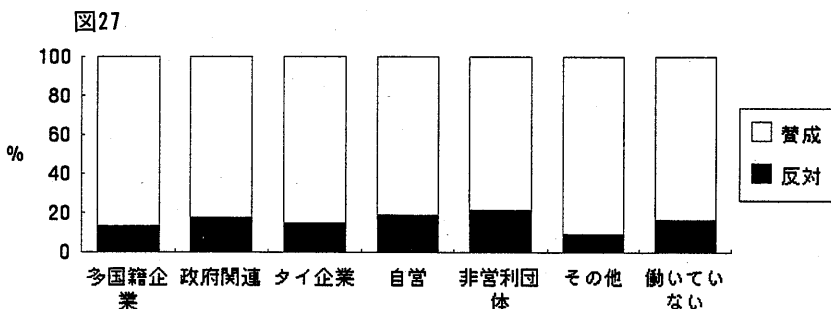
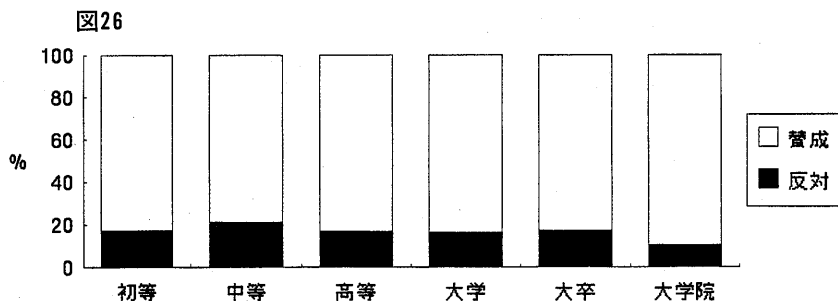
検定の値は4.601(0.331)であるから、年齢と賛否の間には連関が無いと見なされる。

### 教育 (図26)

賛成の最大は大学院で89.74%、最小は中等教育層で78.95%。カイ二乗値は5.213(0.390)であるから、教育と賛否の間には連関がないようだ。

### 勤め先 (図27)

賛成の最大はその他で90.91%、最小は非営利団体で78.57%。カイ二乗値は



4.468(0.614)であるから、連関はないように見える。

### 性 (図28)

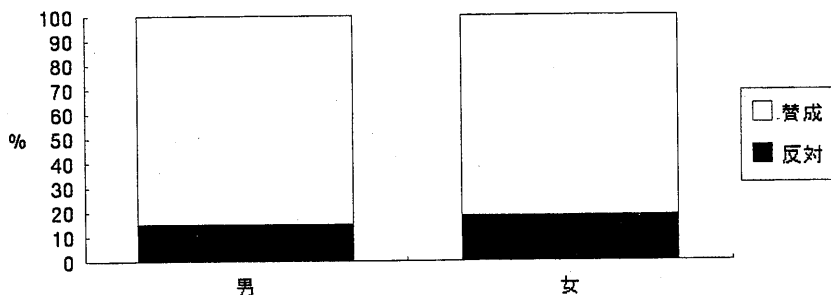
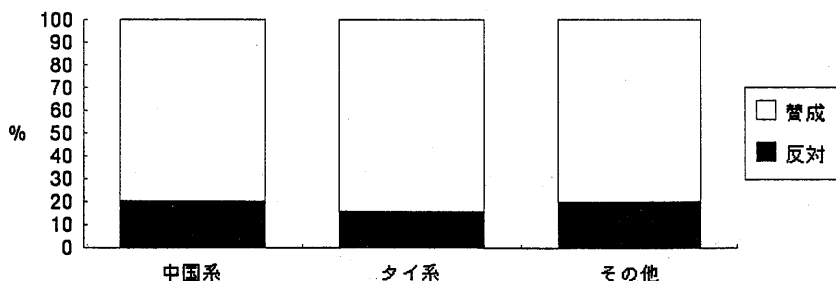


図29



賛成は男が85.07%、女が81.64%。カイ二乗値は4.247(0.039)であるから、男女ではこの価値観に対する賛否の比率が異なっており、しかも男の賛成の割合が高いと言える。

### 民族 (図29)

賛成の最大はタイ系で84.01%、最小は中国系で79.59%。カイ二乗値は3.566(0.168)である。クロス集計表の度数不足を解消するためにその他のカテゴリーを落として、カイ二乗値を計算しても、やはり有意確率は5%を上回った。従って、連関はないと考えられる。

### 宗教

先ず親の宗教(図30)から見ると、賛成の最大はヒンズー教と自由論者で100%、最小はその他で66.67%。カイ二乗値は2.559(0.768)。ヒンズー教、自由論者、その他のカテゴリーを落としても、有意確率は5%を上回った。そこで連関は無いと考えられる。次に自己の宗教(図31)では賛成の最大はイスラム教の86.36

図30

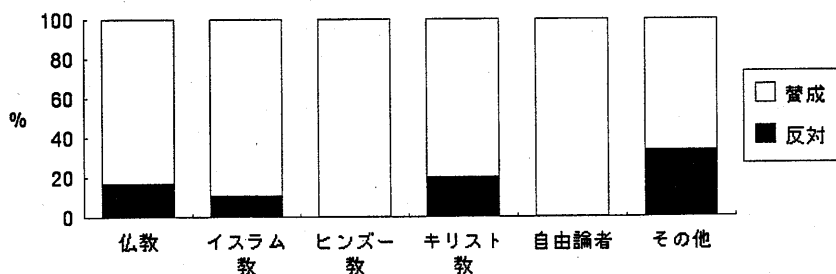
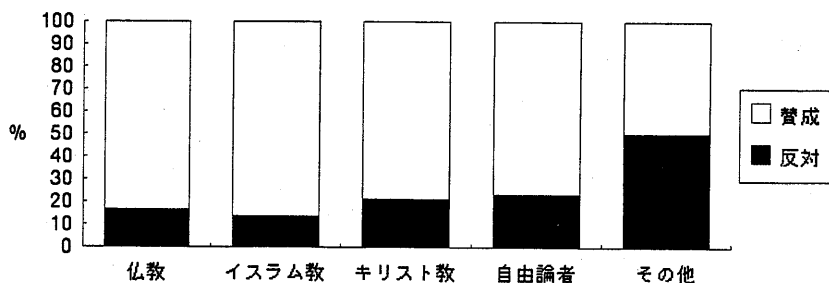
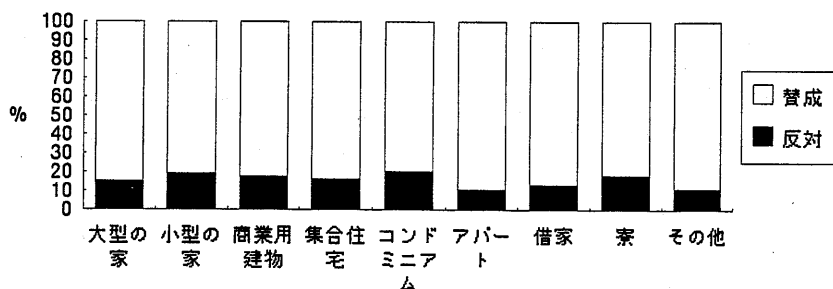


図31



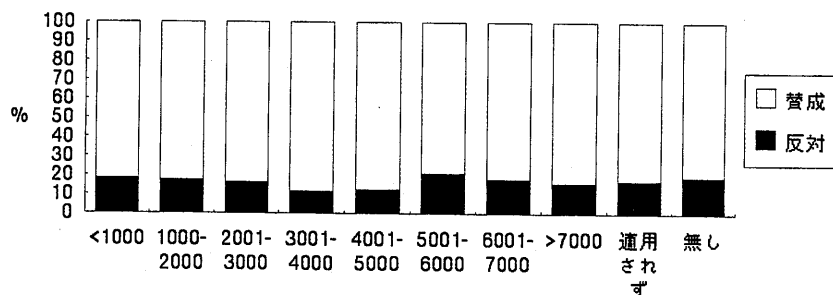
％、最小はその他の50％。カイ二乗値は2.972(0.562)であり、自由論者とその他のカテゴリーを落として計算しても、有意確率は5％を上回った。連関は無いと考えられる。

住居 (図32)



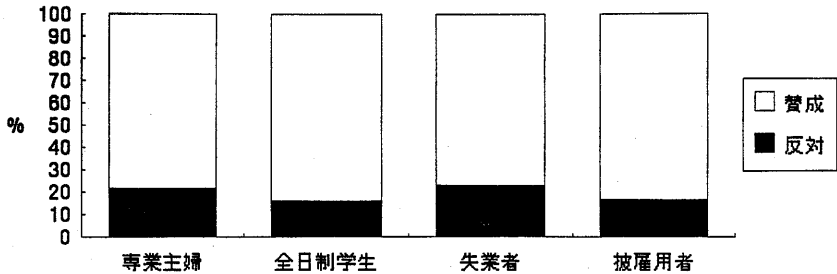
賛成の最大はアパート層で89.47％、最小はコンドミニウムで80％。カイ二乗値は6.11(0.635)であるから、連関は無いと考えられる。

小遣い (図33)



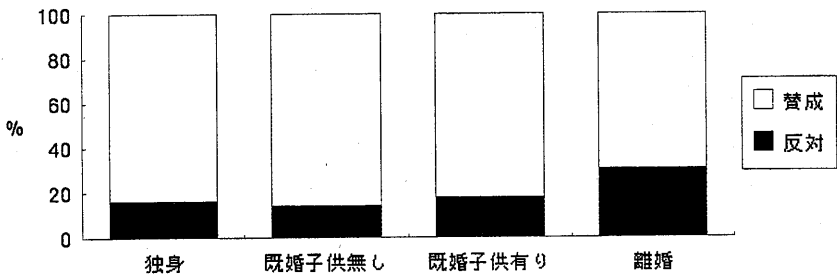
賛成の最大は3001-4000パーツ層で88.62%、最小は5001-6000パーツ層で79.37%。カイ二乗値は5.485(0.790)であるから、連関は無い。

仕事 (図34)



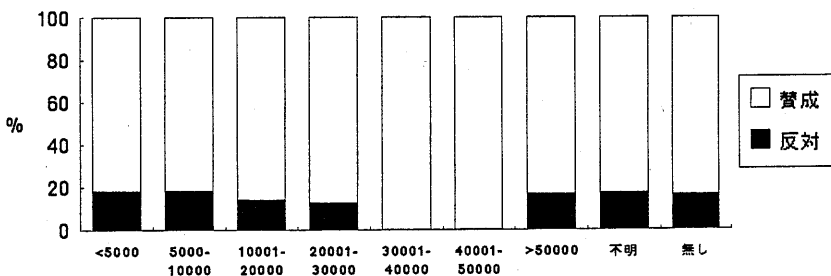
賛成の最大は全日制学生層で84.2%、最小は失業者層で77.27%。カイ二乗値は2.641(0.450)であるから、連関は無いと考えられる。

配偶関係 (図35)



賛成の最大は既婚子供無しの層で85.95%、最小は離婚者層の69.57%。カイ二乗値は4.318(0.229)であるから連関は無いと考えられる。

月当り所得 (図36)



賛成の最大は30001-40000パーツ層と40001-50000パーツ層で100%、最小は5000-10000パーツ層で81.84%。カイ二乗値は0.039(0.491)であり、連関は無いと考えられる。

#### 4) 「権力当局を尊敬することは重要である」

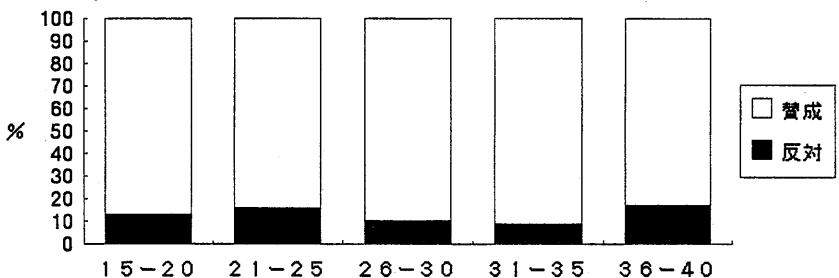
タイに於ける基本的価値体系として権威主義があげられる。タイの権威主義とは、自己よりも優越している人にはひたすら恭順であり、従属している人にはボスとして支配権をふるう、というような態度である。<sup>(9)</sup> 権威主義の具体的例として、岩城氏は大変興味深い引用をされているのでここで紹介する。

「だれが言い出したのかは知らないが、官僚社会で立身出世したいのなら、次の四項目に注意せよということだ。

1. いかなる場合にも上司の前に出ないように心がけること。
2. 上司と議論を闘わせないこと。
3. 上司婦人の機嫌を損じないこと。
4. 上司の利害関係に立ち入らないこと。」<sup>(10)</sup>

聖書は上に立つ権威には従うべきだと次のように述べている。パウロのローマ人への手紙13章1節「人はみな、上に立つ権威にしたがうべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです」しかし、ヤコブの手紙2章1節では「兄弟たちよ、人々を卑しい目で見てはいけません（偏見を持ったり、えこひいきをしたりしてはいけません）。く目上の人にはへつらい、目下の人にはいばっているようなことをしながら」 栄光

図37



の〔主〕である主イエス・キリストに対する信仰を保〔とう〕〈実践〉〔しよう〕としてはなりません。』と指摘してある。<sup>(11)</sup>

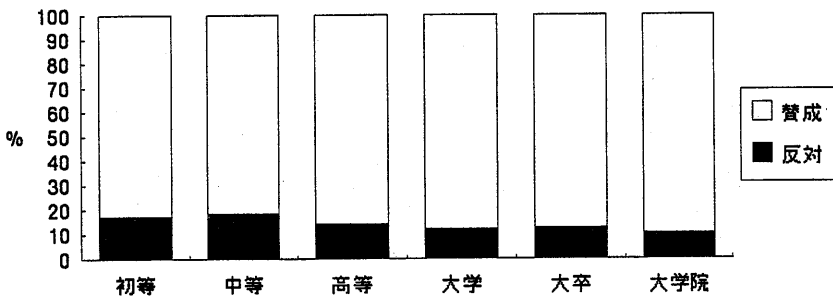
### 年齢 (図37)

賛成の最大は31-35歳層で91.21%、最小は36-40歳層で83.13%。カイ二乗値は15.855(0.003)であるから、年齢と賛否の間には連関が無いという帰無仮説が棄却される。

### 教育

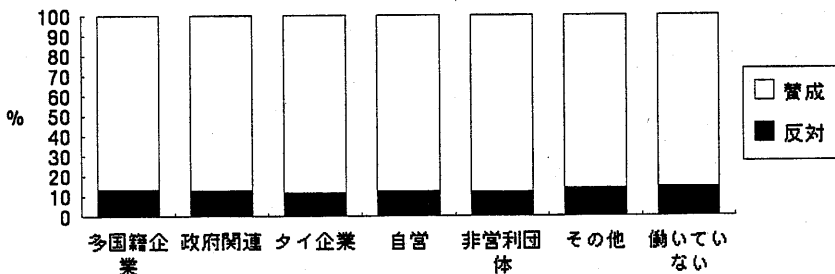
図38を見ると、賛成の割合は教育水準が上がるにつれて、高くなる傾向が見られる。

図38



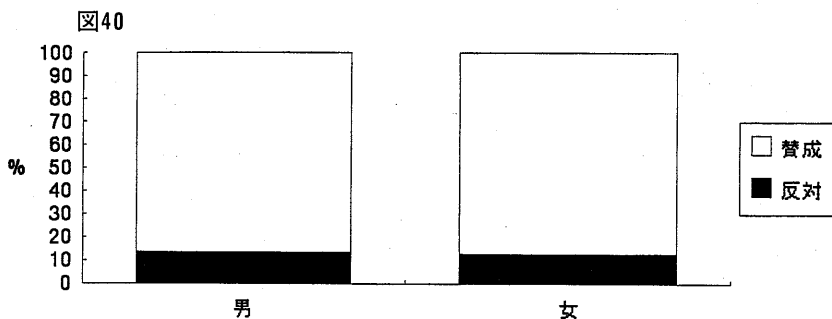
賛成の最大は大学院で89.74%、最小は初等教育層で81.58%。カイ二乗値は5.264(0.384)であるから、帰無仮説が採択される。

### 勤め先 (図39)



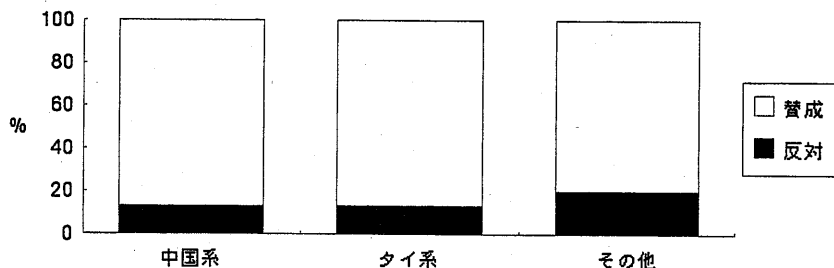
賛成の最大はタイ企業で88.42%、最小は働かない層で85.79%。カイ二乗値は1.735(0.942)であるから連関は無いと考えられる。

### (性 (図40)



賛成は男で86.57%、女で87.33%。カイ二乗検定をすると0.249(0.618)であるから、帰無仮説が採択される。換言すると男女間では価値観の賛否は異なっていないと考えられる。

#### 民族 (図41)



賛成の最大は中国系で87.07%、最小はタイ系で86.95%。カイ二乗検定値は0.217(0.897)であった。セル内の度数不足を解消するためにその他のカテゴリーを落としても、有意確率は5%以上あったので、連関が無いと考えられる。

#### 宗教

親の宗教 (図42) について先ず見ると、賛成の最大はその他の100%、最小は

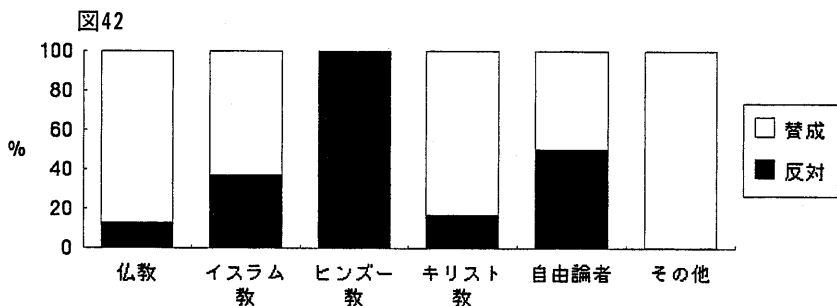
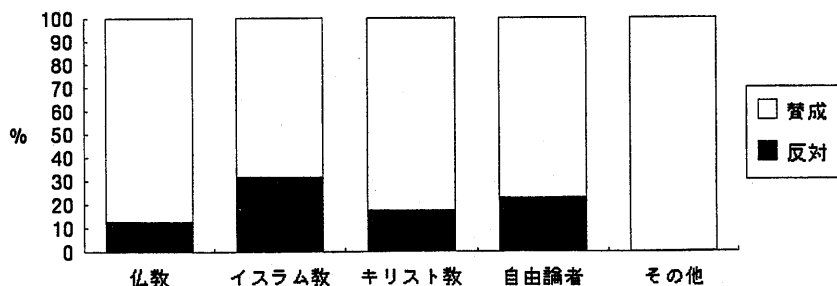


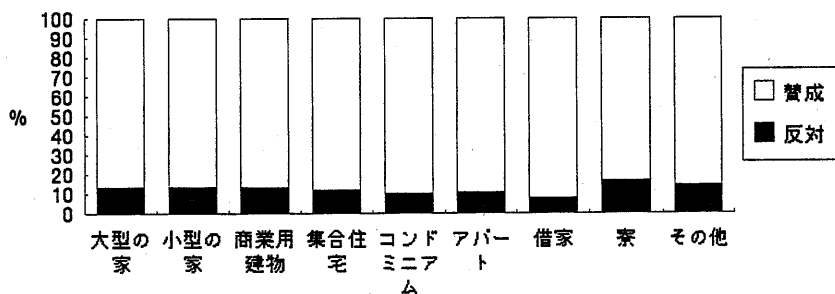
図43



ヒンズー教の0%。カイ二乗検定を行なうと、その値は19.982(0.001)であるが、度数が5より少ないセルの割合が58%あるので、それを解消するために、ヒンズー教、自由論者、その他のカテゴリーを落としてカイ二乗値を計算すると、10.036(0.007)であるから、親の宗教とこの価値観の賛否の間には何等かの連関があると考えられる。

次に自己の宗教(図43)について見ると、賛成の最大はその他の100%、最小は68.18%。カイ二乗検定値は9.572(0.048)。自由論者とその他のカテゴリーを落とした場合のカイ二乗検定値は8.143(0.017)であった。従って、何等かの連関が有ることが示唆される。

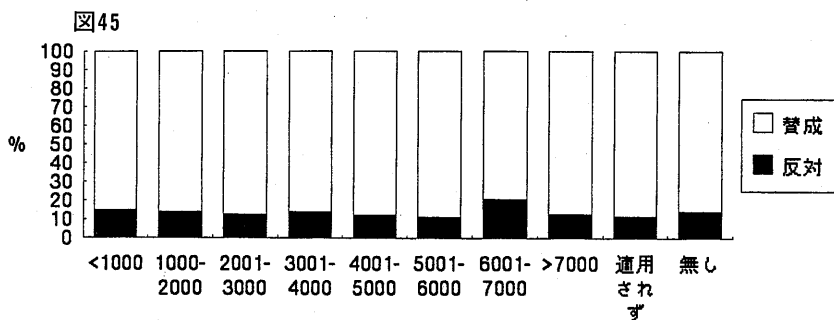
住居(図44)



賛成の最大は借家で92.31%、最小は寮の83.62%。カイ二乗検定値は3.940(0.863)であるから、上述の帰無仮説が採択される。

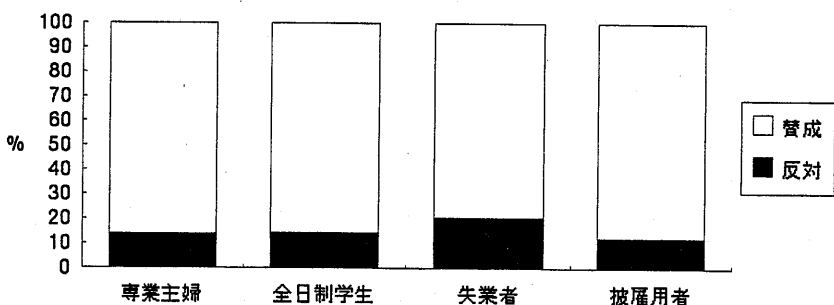
小遣い(図45)

賛成の最大は5001-6000バーツ層で、88.89%、最小は6001-7000バーツ層で



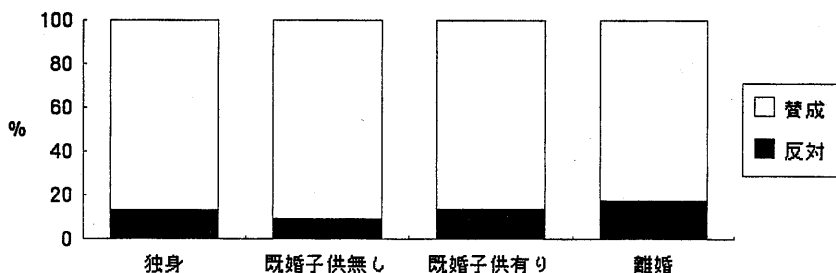
79.41%。カイ二乗検定値は4.011(0.911)であるから、連関は無いと考えられる。

#### 仕事 (図46)



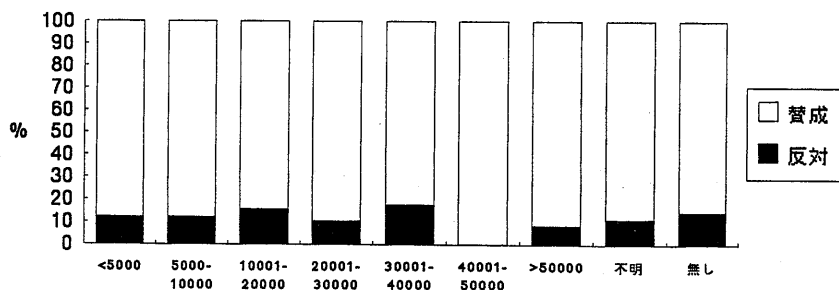
賛成の最大は被雇用者層で87.86%、最小は失業者層で79.55%。カイ二乗検定値は3.774(0.287)であるから、連関は無いと考えられる。

#### 配偶関係 (図47)



賛成の最大は既婚子供無し層で90.91%、最小は離婚者層で82.61%。カイ二乗検定値は2.173(0.537)だから連関は無いと考えられる。

月当り所得（図48）



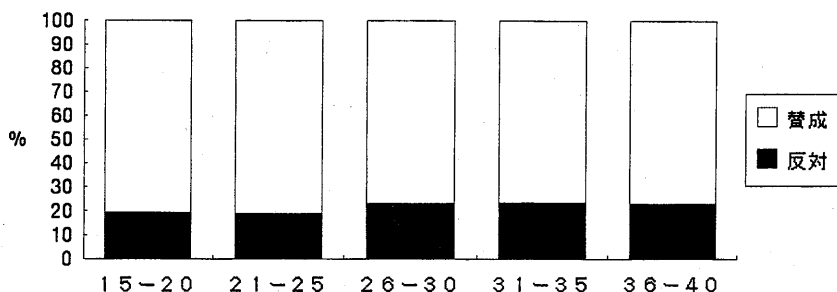
賛成の最大は40001-50000パーツ層で100%、最小は30001-40000パーツ層は82.35%。カイ二乗検定値は4.994(0.758)だから連関は無しと考えられる。

#### 5) 「年長者のアドバイスに耳を傾ける」

スパットラー・スパーブというタイの社会学者は『タイの社会と文化』という著書の中でタイ人の価値観を36項目に分けて考えているが、その中の一つが「年長者への尊敬」である。そして次のような説明をしている。親が子に、「年長者や目上の者に逆らってはならない」と教えていることもあり、一般的には年長者や地位の高い人に畏敬の念を抱き、遠慮して自分の意見を述べようとしないところがあるとしている。<sup>(13)</sup>

一方、箴言7章1、2節は「わが子よ。私のことばを守り、私の命令をあなたのうちにたくわえよ。私の命令を守って、生きよ。私のおしえを、あなたのひとみのように守れ」と述べている。もちろんここでの「私」とは主イエス・キリストの事である。

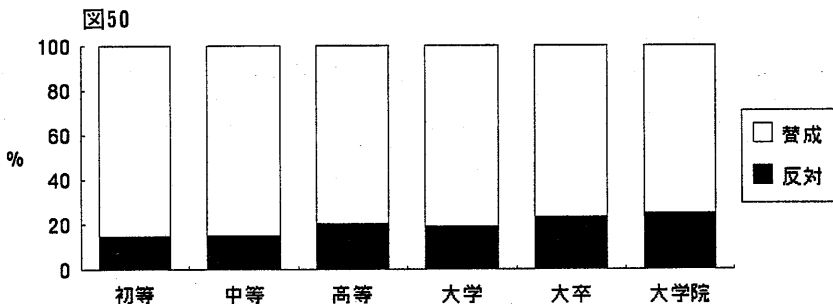
年齢（図49）



賛成の最大は21-25歳層で81.09%、最小は31-35歳層で76.65%。カイ二乗検定値は4.863(0.302)だから年齢とこの賛否の間には連関が無いと考えられる。

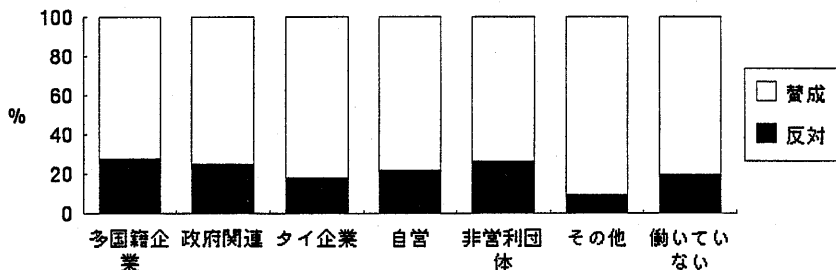
## 教育

図50を見ると、教育水準が上がるにつれて賛成の割合が減少している。賛成



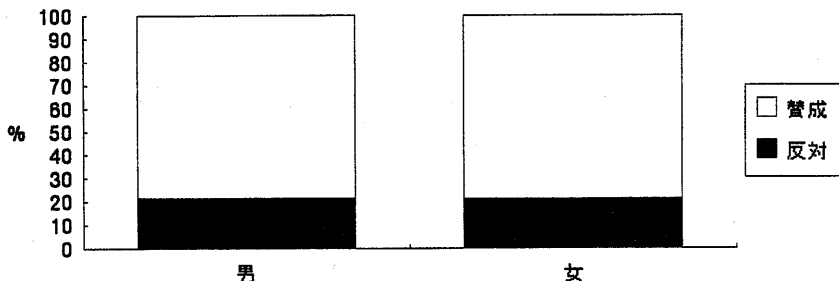
の最大は初等教育層で85.37%、最小は大学院層で75.21%。カイ二乗検定値は8.327(0.139)であるから、連関は無いと考えられる。

## 勤め先 (図51)



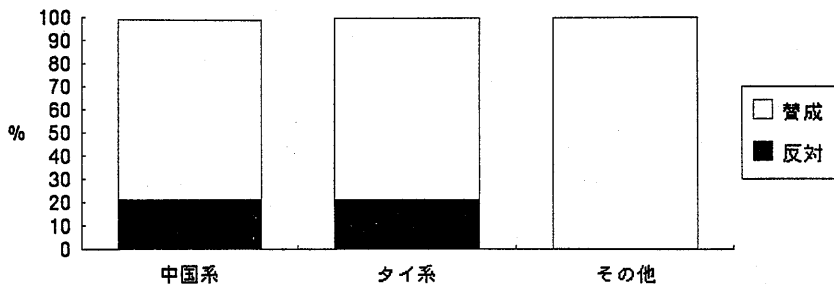
賛成の最大はその他の90.91%、最小は多国籍企業の72.53%。カイ二乗検定値は11.830(0.066)だから、連関は無いと考えられる。

## 性 (図52)



賛成の割合は男が78.66%、女が78.84%。カイ二乗検定値は0.010(0.919)であるから、男女間の価値観は異ならないと考えられる。

民族 (図53)

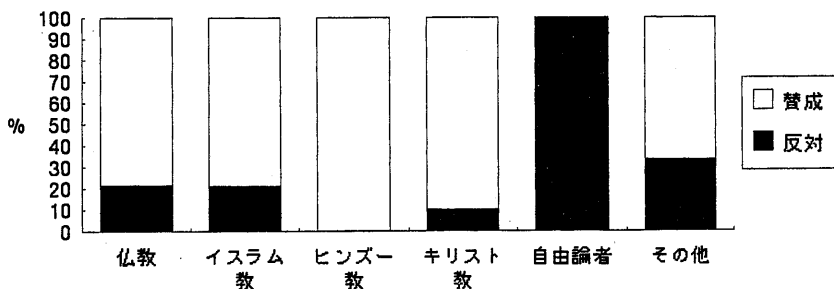


賛成の最大はその他の100%、最小は中国系の77.89%。カイ二乗検定値は1.486(0.476)であるが、度数が5より少ないセルを落とす為にその他を除いて、カイ二乗検定値を求めると0.133(0.715)であった。いずれにせよ連関は無いと見なされる。

## 宗教

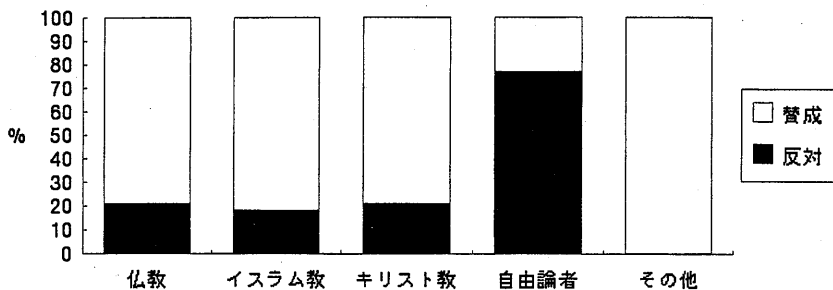
最初に親の宗教 (図54) を見ると、賛成の最大はヒンズー教で100%、最小は自由論者で0%。カイ二乗検定値は10.48(0.063)であった。度数不足を除去するためにヒンズー教、自由論者とその他を落として計算すると2.270(0.321)であり連関が無いと考えられる。

図54



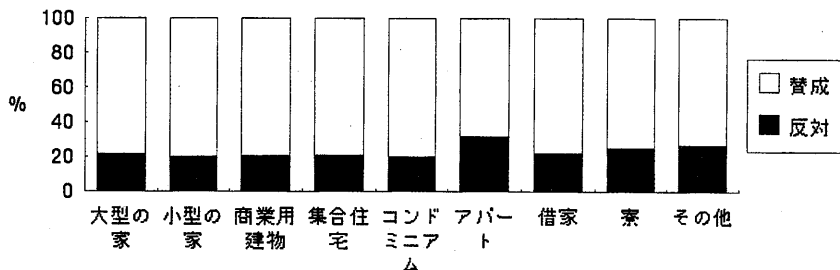
自己の宗教 (図55) で見ると、賛成の最大はその他で100%、最小は自由論言で23.08%。カイ二乗検定値は24.857(0.00)であり、度数不足解消の為に自由論

図55



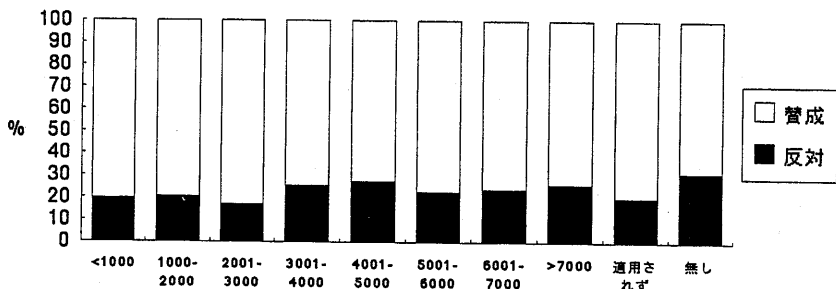
者とその他の層を落とすと、カイ二乗値は0.1 (0.951) となってしまう、判定を下すことがここでは出来ない。

住居 (図56)



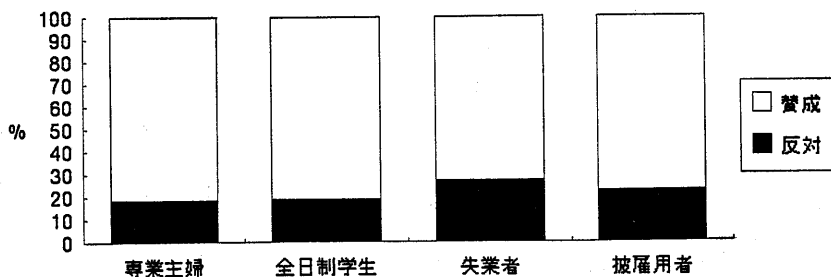
賛成の最大は小型の家で80.15%、最小はアパートで68.42%。カイ二乗検定値は4.031 (0.854) であるから、連関は無いと考えられる。

小遣い (図57)



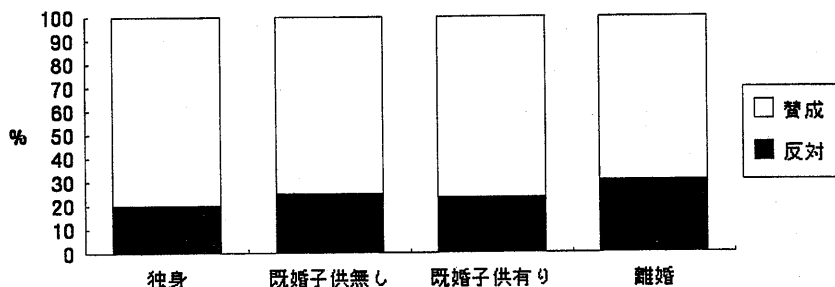
賛成の最大は2001-3000パーツ層で83.27%、最小は無しの層で69.01%。カイ二乗検定値は16.835 (0.051) であるから、連関は無いと考えられる。

仕事 (図58)



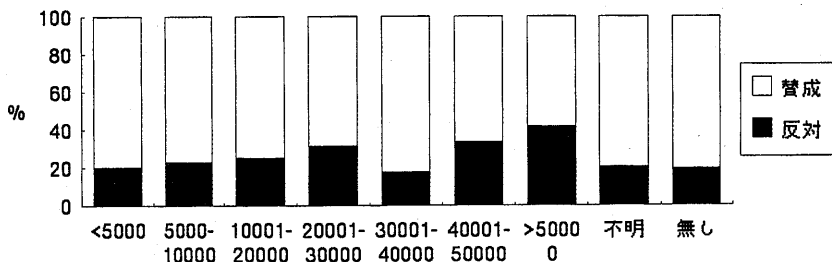
賛成の最大は専業主婦層で81.54%、最小は失業者で72.73%。カイ二乗検定値は4.515(0.211)だから、連関は無いと考えられる。

配偶関係 (図59)



賛成の最大は独身者層で79.99%、最小は離婚者層で69.57%。カイ二乗値は4.571(0.206)だから、連関は無いと考えられる。

月当り所得 (図60)

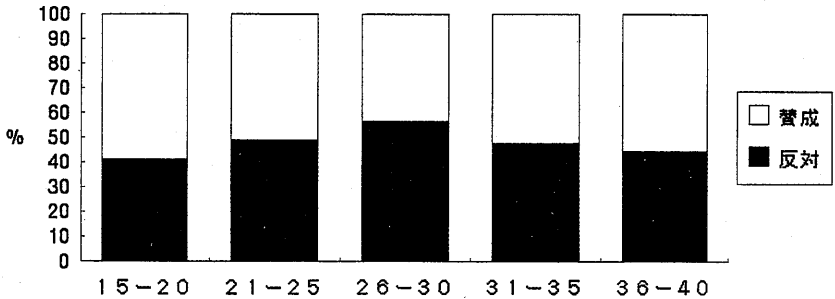


賛成の最大は30001-40000パーツ層で82.35%、最小は5000パーツを上回る層で58.33%。カイ二乗検定値は10.434(0.236)だから連関は無いと考えられる。

## 6) 「婚前交渉は悪い事である」

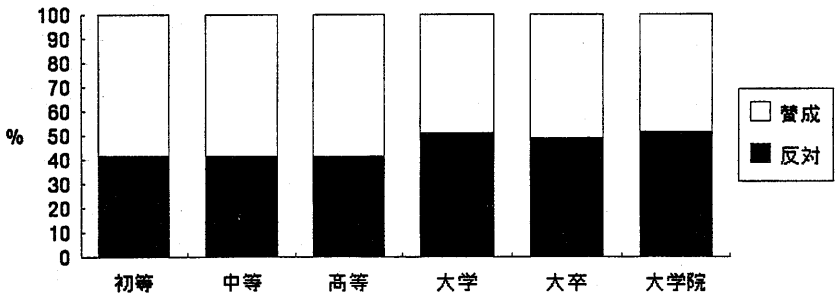
ヘブル人への手紙13章4節は「結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行なう者とをさばかれるからです」と述べている。

年齢 (図61)



賛成の最大は15-20歳層で58.97%、最小は26-30歳層の43.57%。カイ二乗検定値は21.343(0.00)であるから、年齢と賛否の間には連関があると考えられる。

教育 (図62)

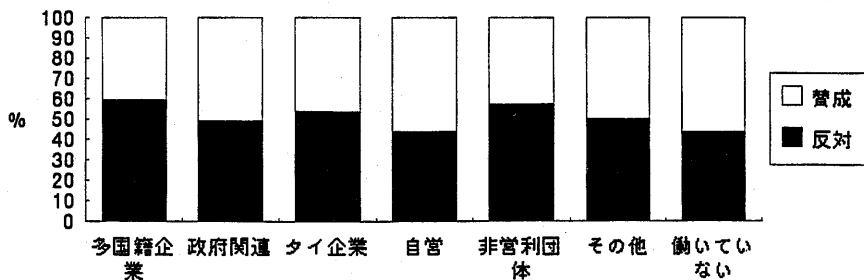


賛成の最大は中等教育層で58.77%、最小は大学院で48.72%。カイ二乗検定値は10.772(0.056)であるから、連関は無いと考えられる。

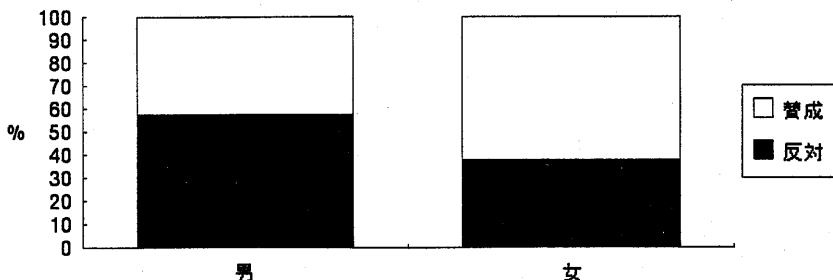
勤め先 (図63)

賛成の最大は働かない層で56.31%、最小は多国籍企業層で40.66%。カイ二乗検定値は17.583(0.007)であるから、連関があると考えられる。

図63

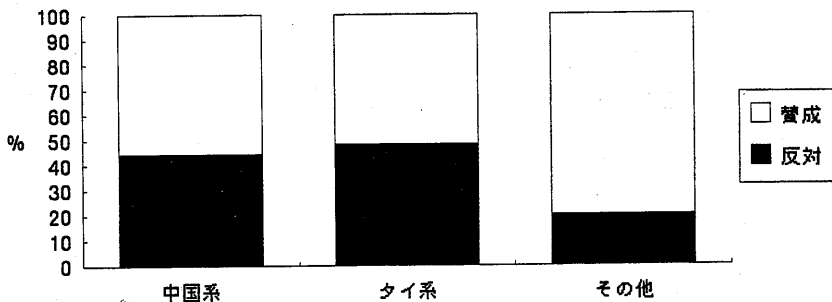


性 (図64)



賛成の割合は男で42.59%、女で62.38%。カイ二乗検定値は78.525(0.00)であるから、男女間ではこの賛否に関して違いがあり、賛成の割合は女の方が大きいと言える。

民族 (図65)



賛成の最大はその他で80%、最小はタイ系で51.85%。カイ二乗検定値は3.073(0.215)、度数不足の為その他のカテゴリーを落として計算すると、1.553(0.213)であるから、連関は無いと考えられる。

## 宗教

先ず親の宗教(図66)から見ると、賛成の最大はヒンズー教と自由論言で100%、最小は仏教徒で52.21%。カイ二乗値は5.742(0.332)、度数不足解消のためにヒンズー教と自由論者とその他を除いて計算すると0.719(0.698)であるから、やはり連関は無いと考えられる。

図66

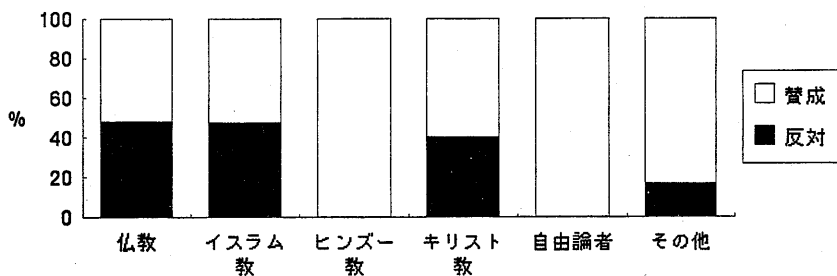
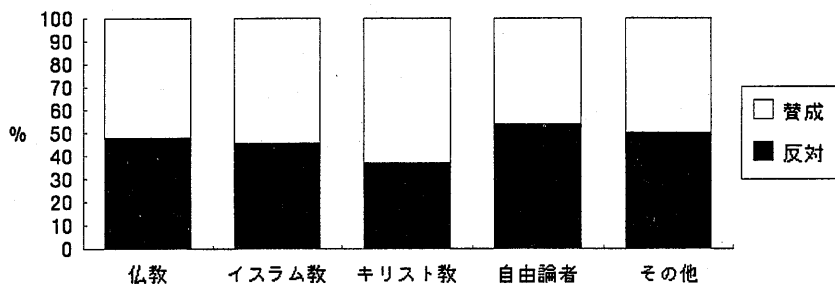
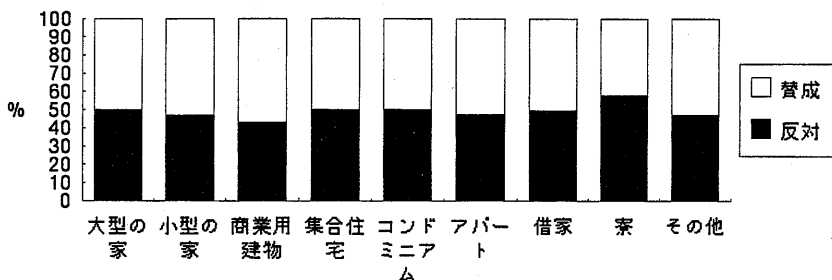


図67



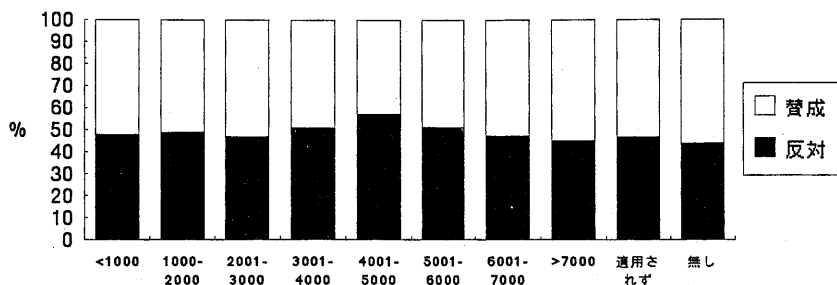
自己の宗教(図67)では賛成の最大はキリスト教で63.16%、最小は自由論者で46.15%。カイ二乗検定値は2.915(0.572)であるから、連関は無いと考えられる。

## 住居 (図68)



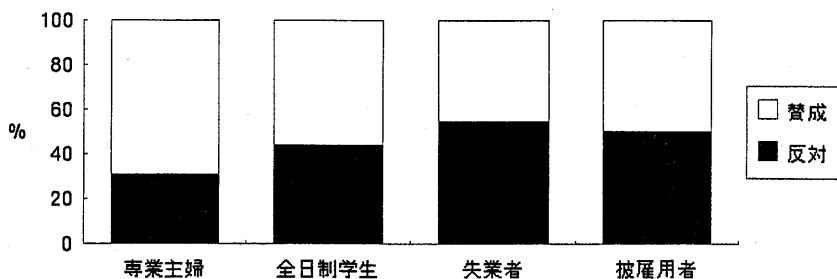
賛成の最大は商業用建物層で56.98%、最小は寮で42.24%。カイ二乗検定値は11.597(0.177)であるから、連関は無いと考えられる。

小遣い (図69)



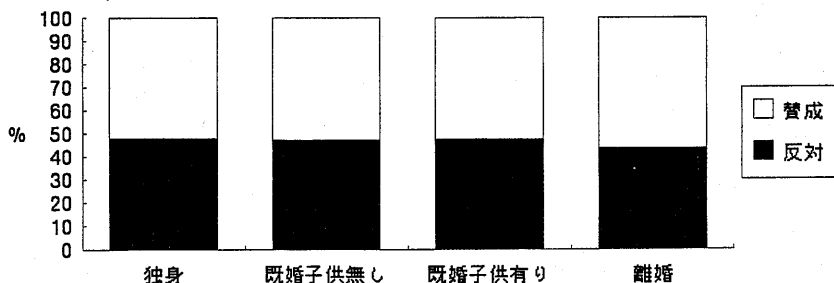
賛成の最大は無しの層で56.34%、最小は4001-5000パーツ層で43.24%。カイ二乗検定値は4.830(0.849)であるから、連関は無いと考えられる。

仕事 (図70)



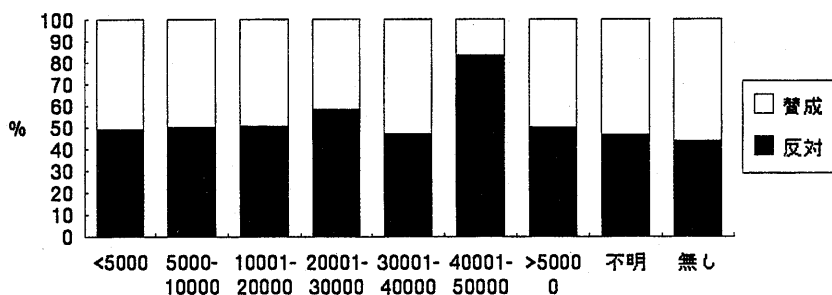
賛成の最大は専業主婦で69.23%、最小は失業者で45.45%。カイ二乗検定値は15.189(0.002)であるから、帰無仮説は棄却される。

配偶関係 (図71)



賛成の最大は離婚者層で56.52%、最小は独身者層で52.36%。カイ二乗検定値は0.168(0.983)であるから、連関は無いと考えられる。

月当り所得 (図72)



賛成の最大は無しの層で56.31%、最小は40001-50000パーツ層の16.67%。カイ二乗検定値は11.968(0.153)であるから、連関は無いと考えられる。

### 3. 要約と結語

今まで述べられたカイ二乗検定の結果を表2に纏めた。この表を列で見て行くと、「年長者のアドバイスに耳を傾ける」に対する賛否では、どの階層変数とも明かな連関を持っていなかったの、これは普遍的な倫理的価値観であると考えられる。

「孝心は社会にまだ非常に多く残っている」は性を除いて連関を持たなかった。

「ほとんどの人々は正直で信頼出来る」については、6つの階層変数と連関を持ち、こうした階層に於いては一般的な傾向を持っていないことが示唆される。

今度は表を行で見ていくと、民族と小遣いはどの価値観とも連関を持たなかった事が分かる。年齢と性がそれぞれ3つずつ価値観と連関している。

表 2

価値観	1)	2)	3)	4)	5)	6)
年齢		○		◎		◎
教育	○					
会社	◎					◎
性	◎		○			◎
民族						
親の宗教				◎		
自己の宗教				◎		
住居	○					
小遣い						
仕事	◎					◎
配偶関係		○				
月当たり所得◎						

注：○は5%で有意、◎は1%で有意を示す。

## 付 録

本稿では賛成の割合の最大と最小について単純に指摘するにとどめたが、こうした最大と最小の割合が統計的に同じものと見なせるか否かを検討するために、6つの価値観の各々の階層変数の最大と最小の層と賛否で2 X 2のクロス集計を行い、5%の有意水準で、ここでは帰無仮説：最大と最小の層に於ける賛成の割合は同じであるを検定した。有意確率が0.05より小さい場合は、帰無仮説が棄却される。尚、宗教は度数不足の為省略した。また、度数不足の場合はフィッシャーの直接検定法を用いて有意確率を求めた。（表3から表8までを参照のこと）

表 3

ほとんどの人々は正直で信頼出来る。				フィッシャーの直接検定による有意確率	
	カイ二乗値	有意確率	最大層	最小層	
年齢	5.99*	0.014	36-40	31-35	
教育	12.606*	0	大学院	大学	
勤め先	11.221*	0.001	非営利団体	自営業	
住居	11.664*	0.001	家	商業用建物	
小遣い	0.982	0.322	6001-7000	無し	
仕事	2.833	0.092	全日制学生	失業者	
配偶関係	1.915	0.166	独身	離婚	
給料	3.159	0.076	30001-40000	40001-50000	0.155

表 4

結果が手段を正当化する。					フィッシャーの直接検定による有意確率
	カイ二乗値	有意確率	最大	最小	
年齢	11.574*	0.001	36-40	21-25	
教育	0.48	0.488	初等教育	大学院	
勤め先	0.717	0.397	非営利団体	その他	
住居	1.534	0.215	アパート	コンドミニアム	
小遣い	1.332	0.248	6001-7000	3001-4000	
仕事	0.382	0.536	失業者	全日制学生	
配偶関係	7.631*	0.006	既婚子供あり	独身	
給料	5.539*	0.019	5000-10000	<50000	0.052

表 5

孝心は社会にまだ非常に多く残っている。					フィッシャーの直接検定による有意確率
	カイ二乗値	有意確率	最大	最小	
年齢	3.454	0.063	31-35	36-40	
教育	5.116*	0.024	大学院	中等教育	
勤め先	1.544	0.214	その他	非営利団体	0.304
住居	0.495	0.482	アパート	コンドミニアム	0.592
小遣い	2.874	0.09	3001-4000	5001-6000	
仕事	1.459	0.227	全日制学生	失業者	
配偶関係	3.736	0.053	既婚子供なし	離婚	
給料	3.742	0.053	30001-40000	5000-10000	0.053
給料	1.328	0.249	40001-50000	5000-10000	0.597

表 6

権力当局を尊敬することは重要である。					フィッシャーの直接検定による有意確率
	カイ二乗値	有意確率	最大	最小	
年齢	10.254*	0.001	31-35	36-40	
教育	1.334	0.248	大学院	初等教育	
勤め先	1.226	0.268	タイ企業	働かない	
住居	3.504	0.061	貸家	家	
小遣い	1.606	0.205	5001-6000	6001-7000	
仕事	2.696	0.101	被雇用者	失業者	
配偶関係	1.427	0.232	既婚子供なし	離婚	0.934
給料	1.218	0.27	40001-50000	30001-40000	0.539

表 7

年長者のアドバイスに耳を傾ける。					フィッシャーの直接検定による有意確率
	カイ二乗値	有意確率	最大	最小	
年齢	2.47	0.116	31-35	36-40	
教育	1.815	0.178	初等教育	大学院	
勤め先	3.292	0.07	その他	多国籍企業	
住居	1.537	0.215	小型の家	アパート	
小遣い	10.9*	0.001	2001-3000	無し	
仕事	1.186	0.276	専業主婦	失業者	
配偶関係	1.524	0.217	独身	離婚	
給料	2.032	0.154	30001-40000	<50000	0.967

表 8

婚前交渉は悪いことである。					フィッシャーの直接検定による有意確率
	カイ二乗値	有意確率	最大	最小	
年齢	19.517*	0	31-35	36-40	
教育	2.347	0.125	中等教育	大学院	
勤め先	8.021*	0.005	働かない	多国籍企業	
住居	8.556*	0.003	商業用建物	寮	
小遣い	3.341	0.068	無し	4001-5000	
仕事	6.162*	0.013	専業主婦	失業者	
配偶関係	0.157	0.692	離婚	独身	
給料	3.796	0.051	無し	40001-50000	0.092

## 注

- (1) 標本抽出に関しては拙稿「タイに於ける消費者行動」『早稲田経済学研究』34号、1991年を参照の事。
- (2) The Sun Juan Star p.807。
- (3) 民族別又は性別で標本を統制し、残りの階層変数でクロス集計をして、民族や性の影響を除く事(階層分析)も可能であるが、セル内の度数がカイ二乗検定を行なうのに十分ではなくなってしまう。
- (4) 岩城、162-3ページ。
- (5) 年齢変数は社会に於ける経験の尺度を測る代理変数と考えられる。
- (6) 赤木、182ページ。
- (7) タイ系とタイ系中国人(本稿では中国系)の間では嗜好、食生活、習慣、信念、生活様式が区別が明確であると考ええる主張もある。  
Blauvelt, E. "Thailand Consumer Market Developments" Marketing Trends in the Asia and Pacific Region Economic Forecasts and Consumer Developments p.198。
- (8) キリスト教は1511年にタイに伝えられ、歴史があるが、その人口は30万未満であり、しかもその75%がローマ・カトリックである。
- (9) 岩城、17-18ページ。
- (10) 駒井、134ページ。
- (11) 詳訳聖書、639ページ。
- (12) 岩城、2ページ。
- (13) 岩城氏の調査でもタイ人のよい点の回答数の多い順で5番目に「年長者や師を尊敬する」が挙げられている。岩城、158ページ。

## 参 考 文 献

The Asia Pacific Center, *Marketing Trends in the Asia Pacific Region Economic Forecasts and Consumer Developments*, Gower Publishing Company Limited, 1980 or 1981 (the year of issue is not mentioned in the book) book).

Bohnstedt, G.W. & Knoke, D., *Statistics for Social Data Analysis* 2nd Ed. 1988 (海野道朗、中村隆監訳、社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門一、ハーベスト社1990年)。

Everitt, B.S., *The Analysis of Contingency tables* 1977 (質的データの解析、1990年、新曜社)。

Kurian, G.T., *Encyclopedia of the Third World*, Revised ed. Vol. III Facts on File Inc.1982。

The San Juan Star, *The World Almanac and book of Facts* 1992。

Taylor, H.(ed.), *Handbooks to the Modern World Asia and the Pacific Vol.I* Facts on File Inc. 1991。

赤木攻『タイの政治文化—剛と柔—』勁草書房、1990年。

岩城雄次郎『日タイ比較文化考』勁草書房、1989年。

蔵谷哲也「タイに於ける消費者行動」『早稲田経済学研究』34号、1991年。

駒井洋『タイの近代化』財団法人、日本国際問題研究所、1978年。

国際大学国際経営研究所編

*Personalities, Value Perceptions and Life styles of postwar Thais Data Book 1990*。

田中忠治『タイ歴史と文化』日中出版、1989年。

詳訳聖書刊行会『詳訳聖書』いのちのことは社、1990年。

新改訳聖書刊行会『聖書 新改訳』いのちのことは社 1990年。